

# 富山市の文化財

第 5 号



## 杉原神社の鬼神面きしんめん

この面は「鬼神面」の一つで、富山市婦中町浜子の杉原神社が所有しています。下向きの眉や上目づかいの瞳、半開きの口、団子鼻などの表現から「悪尉あくじょう」と推定され、植毛の痕跡が残存していることが特徴的です。大きさは、縦 23 cm、横 15 cm です。

制作時期は、室町～安土桃山時代で、越中国で制作されたと推定され、在地性の強い面です。使用方法は、芸能というよりは、神事に用いられた可能性が高く、杉原神社に奉納されたと考えられています。

この面はかなり使い込まれたと思われ、側面等には劣化や欠損がみられますが、黒漆の色彩が残存し、保存状態はほぼ良好で、富山市の工芸史上貴重です。また、悪尉の形成過程を考える上でも学術的価値が極めて高いとして、平成 25 年 12 月 25 日に富山市指定文化財に指定されました。これで、市指定文化財は 149 件になりました。

## 新たな国指定文化財・国登録有形文化財

### 1 新湯の玉滴石産地〈国天然記念物〉

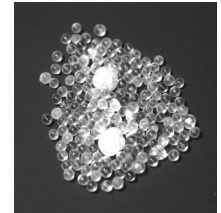
〔指定日〕平成25年10月17日

新湯は、常願寺川の源流部にある立山カルデラの中にあり、直径約30m、水深約5mの円形の池です。約4万年前以降に、水蒸気爆発による火口で、安政5年(1858)の飛越地震の際に熱水が噴き出し、現在でも約70℃の湯が新湯滝を通じて常願寺川へと溢れ出しています。

また、新湯は直径1～2mmの透明なガラスのような玉滴石を産み出す国内有数の産地です。市内の国指定文化財は32件になりました。



新湯(立山カルデラ砂防博物館提供)



玉滴石

### 2 北陸銀行本店〈国登録有形文化財〉

〔登録日〕平成25年12月24日

この建物は、鉄骨鉄筋コンクリート造6階地下2階建て、3階建塔屋が付きます。6層分の柱列を表し、柱間に小割の石を貼詰めています。1階では表通りから裏通りの商店街に通じるコロネードが通ります。昭和36年の建築(昭和48年に一部増築)で、富山市の戦後復興を象徴する大型事務所建築です。市内の国登録有形文化財は31件になりました。



北陸銀行本店

## 平成25年度に行った主な事業

### 1 文化財総合調査事業(重点分野創出事業活用)

この事業は市内のそれぞれの地域に残された文化財の現状を把握し、総合的な視点から調査・整理を行い、広く一般に公開することを目的とする事業です。

25年度は、21～24年度に収集した約7,800点の調査データの補足調査を行いました。

### 2 文化財標識等の修繕・新設

国登録有形文化財や県・市指定文化財、埋蔵文化財などの案内板等の修繕と新設を行いました。

- (1) 修繕した案内板等 陶芸館、各願寺の市指定文化財(絹本着色不動明王像、寺領寄進状(前田利次印)、前田正甫各願寺観花の詠)、大玉生のかつら、論田山トチ群生林、大道城跡、小竹貝塚、牛滑遺跡、塚根経塚、殿様林、岡崎家屋敷跡、井上家屋敷跡、

- (2) 新設した案内板等 八尾町祭礼曳山(西町)、富崎城跡



八尾町祭礼曳山(西町)案内板

### 3 旧水橋郷土史料館の収蔵資料展示など

水橋郷土資料展示コーナーで、企画展(年2回)などを行いました。

#### (1) 企画展

ア. 「～水橋にゆかりの文芸を通して～想いを伝える」

平成25年6月7日～12月8日

小寺菊子自筆原稿など77点を展示しました。

イ. 「水橋と売薬」

平成25年12月10日～平成26年5月頃

薬製造用具、売薬土産など47点を展示しました。



「水橋と売薬」展示風景

#### (2) 収蔵資料の貸出など

ア. 引札等29点 平成25年9月3日～11月18日

民俗民芸村「企画展 船頭の船簞笥ふなだんす—近代富山の海運業—」

#### (3) 旧水橋郷土史料館見学など

25.6.2 見学会(小矢部市北蟹谷公民館)

25.6.28 取材：北日本新聞

25.7.9 見学会(水橋中学校・三成中学校)

25.10.17 見学会(治安維持法同盟滋賀県本部)

25.11.18 資料調査：海岸分間繪圖(地元研究者)

### 4 国指定重要文化財建造物管理

#### (1) 浮田家住宅

ア. 入場者数 1,910人(平成26年2月末現在)

①視察・団体 2件 ②取材など3件

イ. 行事・イベントなど

25.6.2 急須塚祭(煎茶道 松風流)

25.6.23 茶会(竹芳会)

25.9.28 清掃奉仕(教職員OB会と山室中学校)

25.10.5 清掃奉仕(富山神通ライオンズクラブ・太田  
長寿会)

25.11.3 文化の日のため無料公開  
おどりとお茶の会(弥富会)

25.11.17 浮田家を学ぶ講演会(朝活ネットワーク富山)

26.1.26 文化財防火デー防火訓練

ウ. 維持管理

- ・樹木の剪定、施肥、雪囲いや除草などの庭園管理業務
- ・主屋の雪囲い ・障子の修理

エ. 保存修理事業

平成25・26年度の2年計画で、主屋や表門等の屋根葺き替え、木部修理等を行っています。

25年度は、表門の差し茅さしがやと主屋柿葺こけらぶきの葺き替え、茶室待合と庭塀の柿葺の一部葺き替えと部分修理を実施しました。



浮田家を学ぶ講演会



表門差し茅風景

## (2) 旧森家住宅

ア. 入場者数 30,806 人(平成 26 年 2 月末現在)

①視察・団体 254 件 ②取材など 22 件

イ. 行事・イベントなど

25. 4. 20 結婚式

25. 5. 27～5. 31 14 歳の挑戦 和合中学校(2 名)

25. 7. 14 とやま国際塾(とやま国際センター)

25. 7. 27 第 66 回岩瀬みなとまつりのため無料公開

25. 9. 28 茶会(茶道裏千家淡交会)

25. 9. 30～10. 4 14 歳の挑戦 岩瀬中学校(2 名)

25. 10. 18 駐車場除草(県職員 0B)

25. 10. 27 第 30 回岩瀬文化祭のため無料公開

25. 11. 3 文化の日のため無料公開

26. 1. 26 文化財防火デー防火訓練

ウ. 維持管理

・雨漏り点検 ・屋根、配電盤修繕



結婚式



裏千家茶会

## 5 文化財保護支援事業

文化財の保存と継承を目的として、次の事業に支援を行いました。

- (1)越中の稚児舞(熊野神社)保存事業<国指定>
- (2)八尾曳山保存修理事業<県指定>
- (3)西岩瀬諏訪社の大けやき環境整備事業<県指定>
- (4)さんさい踊り開催事業<市指定>
- (5)中老田のモチノキ保存事業<市指定>
- (6)大久保高砂山たかさごやま曳山収蔵庫改修事業<市指定>



大久保高砂山曳山収蔵庫

## 6 浜黒崎の松並木の環境整備

県指定文化財である「浜黒崎の松並木」の周辺の除草、薬剤散布、枯枝除去を行いました。また、マツクイムシ被害により枯死したNo.2 の伐採、マツクイムシ被害を防止するための薬剤注入を実施しました。

## 7 カモシカの保護

国特別天然記念物であるカモシカの保護を行っています。平成 25 年 3 月～平成 26 年 2 月の滅失件数・出動件数は以下のとおりです。

	25 年 3 月	24 年度計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	26 年 1 月	2 月	計
滅失件数	3	22	3	5	4	1	2	1	1	0	2	2	1	22
出動件数	6	38	5	11	11	6	8	2	3	0	2	2	2	52

## 8 指定文化財の整備業務

市指定史跡・天然記念物の草刈・雑木刈等の整備業務などを行いました。



- (1) 城生城跡 じょうのう 平成 25 年 5～8 月 (2) 井田主馬ヶ城跡 いだしゅめが 平成 25 年 9 月 28 日  
 (3) 大道城跡 平成 25 年 7 月 13 日 (4) 尾畑城跡 おぼたけ 平成 25 年 7 月 3 日  
 (5) 小井波の水芭蕉 整備工事(畦整備、木道設置、水路整備)

## 9 富山市博物館施設等連携事業

市民向けバスツアーを 11 月 2 日に開催しました。ツアーのコースは、郷土博物館→民俗民芸村→猪谷関所館→大山歴史民俗資料館で、参加者は 11 名でした。

また、「富山市の博物館等ガイドマップ」を増刷しました。ガイドマップに掲載された施設や生涯学習課、各教育行政センター等に設置してあります。なお、富山市のホームページ(「富山市観光ガイド」-「パンフレットギャラリー」)からダウンロードできます。



## 10 富山市文化財調査審議会の開催

平成 25 年 12 月 2 日に、平成 25 年度の富山市文化財調査審議会を開催しました。「杉原神社の鬼神面」の市文化財の指定について諮問を行ったほか、①平成 24 年度文化財関係事業の実績、②平成 25 年度文化財関係事業の概要、③前回の審議会で協議した案件について報告しました。

なお、「杉原神社の鬼神面」については、富山市指定文化財としてふさわしいと答申を得ました。本面の詳細については、表紙を参照ください。

## 11 第 60 回 文化財防火デー

1 月 26 日の文化財防火デーにあわせて、指定文化財を保有する施設において消防訓練や消防設備点検、防災指導等を行う査察が富山市消防局により実施されました。

消防訓練には、町内会や消防団員など地域住民の方々も参加しました。

### (1) 消防訓練

- 1 月 19 日 東薬寺(富山市牧野) 37 名  
 1 月 21 日 八尾曳山展示館(富山市八尾町上新町) 41 名  
 1 月 26 日 浮田家住宅(富山市太田南町) 64 名  
 旧森家住宅(富山市東岩瀬町) 60 名  
 帝龍寺(富山市船峯) 48 名  
 杉原神社(富山市婦中町田屋) 46 名



### (2) 査察など

- ア. 富山地域 正源寺、円隆寺、玉永寺など 25 ケ所(平成 26 年 1 月 14～28 日)  
 イ. 大沢野・細入地域 八坂社、上行寺など 8 ケ所(平成 26 年 1 月 14～26 日)  
 ウ. 大山地域 宝寿院、大川寺など 4 ケ所(平成 26 年 1 月 15～21 日)  
 エ. 八尾地域 聞名寺、本法寺など 3 ケ所(平成 26 年 1 月 21～24 日)  
 オ. 婦中地域 常楽寺、各願寺、鵜坂神社など 7 ケ所(平成 26 年 1 月 22～29 日)

## 富山市の文化財案内 市指定・工芸品編(その1)

### 1 千手観音懸仏

〔所在地〕 富山市大山上野(大川寺)

〔指定日〕 昭和38年12月23日

懸仏とは、鏡面等の表面に仏や菩薩像、神像などを表現したものです。はじめは線彫でやがて半肉彫、鎌倉時代後半には丸彫が現れ、大型化していきます。製作は平安時代後期から江戸時代に及びますが、鎌倉・室町時代が最も盛んです。

この懸仏は、直径18cm、厚さ7mmの木製の円盤に銅板を取り付けています。中央には千手観音を配し、その上には天蓋を付け、左右には花瓶が置かれます。周りには覆輪と界圈を巡らし、その間には飾鋸と瑞雲が交互に並んでいます。瑞雲は本来三鈷杵を表現するつもりが、細かい打ち出しができなかったため「雲」の形になったと考えられます。左右の肩に吊り金具があり、獅子が円板をくわえているので獅嚙座と呼ばれています。装飾性が高いため、室町時代以降の作と考えられています。

また、この懸仏は有峰の村長村上家(中地山城主河上氏の家臣)に伝来しました。村上家は天保の飢饉で断絶したため、各戸が1年交代で保管し、東谷の宮の祭には社殿に祭っていました。なお、「兜権現」と称し、出陣の際には甲冑にかけて戦勝を祈願したという言い伝えが残ります。



### 2 梵鐘

〔所在地〕 富山市本宮(念法寺)

〔指定日〕 昭和57年5月4日

この梵鐘は、明治2年(1869)、加賀藩の廃仏棄釈のうちに、中宮寺から当寺に売却されたもので、総丈136cm、口径76cmになります。

銘文は、撞座上の縦帯や池の間に表現されており、縦帯には、「南無御婦大日如来」や梵字が陽刻されています。池の間の銘文は陰刻で、写真に見える縦帯の左区画には、中宮寺嬬堂の梵鐘が三度火災にあって、三度つくられたことや「今将文政五年稔午仲春三河国有信心講中之願主」、「文政五年午稔仲秋吉梟」などと書かれています。

次の区画には「施主三河国講中并町在村々」と寄進関係者の名前、その左隣の区画には野吹職人のことなどが記載され、さらにその左区画には「越中新



川郡芦峯寺村 願主 善道坊]、「三河国宝飯郡北金屋村 一色家清末葉 蔵人所 供御人 御  
鑄物師 大工職 中尾與惣治 藤原安之」などと刻まれています。

このことから、この梵鐘は、中宮寺嬬堂の梵鐘として芦峯寺の善道坊が願主となり、  
自坊の檀那場（布教活動範囲）である三河国の立山講中の人々や立山を信仰する人々の  
寄進を募り、文政5年(1822)に、三河国宝飯郡北金屋村の鑄物師によって鑄造されたこ  
とがわかります。また、鑄造場所は、芦峯寺とする説があります。

### 3 砂付の梵鐘

〔所在地〕 富山市婦中町富崎(本覚寺)

〔指定日〕 昭和61年7月21日

この梵鐘は、室町時代につくられたと考えられ、富崎  
城主であった神保安芸守が、ある工人（「都築七良右衛  
門」という説があります。）に鑄造させて、本覚寺に寄  
進したと伝えられています。大きさは、総丈118cm、口  
径73cmです。

「砂付の梵鐘」と名付けられたのは、戦国時代、佐々  
成政が富山城主の時、富山城の鐘の音色より本覚寺の梵  
鐘の方が優れていたのをねたみ、砂を焼き付けて音色を  
変えたという言い伝えからです。しかし、砂はわざと付  
けたのではなく、鑄造の過程で付着した砂が残ったもの  
という見方もあります。



### 4 鰐口

〔所在地〕 富山市片掛(八坂社)

〔指定日〕 昭和60年3月1日

鰐口とは、神社の社殿や仏堂の正面の軒先  
につるされた銅製などの梵音具で、下方が横  
長にあけられ、鈴を扁平にした円形で中空と  
なっています。側面の耳によりつりさげられ、  
参詣者は布なので包まれた太い緒を振り、打  
ち鳴らします。

この鰐口は、鑄鉄製で、直径19.8cm、厚  
さ7cmです。中央の撞座には単弁八葉蓮華文  
が施され、耳のところには、吊り鎖が付いて  
います。銘文は銘帯部分の右側に「慶長四年五月吉日」、左側に「片掛住人 竹□□兵  
衛」と陽刻されており、慶長4年(1599)に鑄造されました。また、慶長期は片掛銀山の  
初期の頃で、銀山組の山師が銀山の安全と繁栄を祈願して奉納したと考えられます。





## 5 鰐口

〔所在地〕 富山市猪谷（猪谷関所館）

〔指定日〕 昭和 60 年 3 月 1 日

この鰐口は、鋳銅製で、直径 22 cm、厚さ 8.5 cm です。中央の撞座には、単弁二十葉蓮華文が施されています。

銘文は銘帯部分の上部に「宮神太」、右側に「施主飛州大野郡高山住 武村伝左衛門奉」、左側に「天和二壬戌十一月吉日」と陰刻されています。天和 2 年(1682)に、高山の武村伝左衛門が白山社に奉納したと考えられます。

現在は、猪谷関所館が所蔵しています。



## 6 鰐口

〔所在地〕 富山市文珠寺(宝寿院)

〔指定日〕 平成 20 年 10 月 29 日

この鰐口は、鋳銅製で直径 37 cm、厚さ 16.5 cm です。中央の撞座には、単弁八葉蓮華文が施されています。

銘文は陰刻で両面にあり、片面(写真の面)の右側の銘帯に「飛州吉城郡富安郷内」、内区に「五社宮鰐口」、左側の銘帯に「岨嘉吉元年辛酉小春廿有五日」、内区に「願主敬白」と記されています。もう片面は、銘帯の右側に「越中国新河郡太田保内金城山文珠寺」、左側に「明德元年八月願主敬白」と書かれています。

このことから、この鰐口は、明德元年(1390)に、文珠寺へ寄進され、嘉吉元年(1441)に、飛州吉城郡富安郷内五社宮へ移り、再び当初懸吊された文殊寺地区に戻されたと考えられます。越中と飛州の交流を裏付け、現時点で富山県内に残る最古の鰐口と考えられます。



〈主な参考文献〉 齊藤善夫 1998 『富山・石川 梵鐘考』、齊藤善夫 2001 『続 富山・石川 梵鐘考』、佐伯幸長 1973 『立山信仰の源流と変遷』、婦中町教育委員会 1998 『文化財を訪ねて』、細入村 2005 『細入村史 通史編(続編)』、前田英雄 2000 「有峰の狛犬と懸仏」『大山の歴史と文化 第 3 号』、前田英雄 2006 「県内最大の鰐口の所在の移動—文珠寺宝寿院蔵—」『大山の歴史と文化 第 9 号』、前田英雄 2008 「明治政府の神仏分離と本宮念法寺梵鐘の由来」『大山の歴史と文化 第 11 号』

富山市の文化財 第 5 号

発行日 平成 26 年 3 月 31 日

編集・発行 富山市教育委員会 生涯学習課

〒930-8510 富山市新桜町 7-38

TEL (076) 443-2138、Fax (076) 443-2194

印刷 有限会社ヤツオ印刷